



# たたら

第 4 号  
島根学習センター内  
島根同窓会  
発行者 竹下靖彦  
2015年1月発行



## 五穀豊穰・無病息災を願う 伝統行事

昨年から遷宮に続き宮家から高円宮典子さまと千家国麿氏のご結婚と慶事が続いた新年の出雲大社です。(写真上)

厄年の男性が鬼面をかぶり、神楽衣装で先払い役の「番内さん」を先頭に出雲大社・北島・千家国造家へ奉納。(写真下)



## 会長挨拶

## 今年「真価」が問われる同窓会

会長 竹下靖彦



島根同窓会の皆さま、新年あけましておめでとうございます。

皆様には、新年を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。2014年度は皆さまに大変お世話になり厚くお礼を申し上げます。

早いもので本年は同窓会設立3年目を迎えます。この2年目を振り返りますとあっという間に過ぎた月日でした。この2年間の活動から同窓会の役割が問われ、今まで以上に役員の実行力が試されることとなります。

新年度では、学習センターとの友好関係を従来どおり堅持するとともに、同窓会の独自活動を発展させたいと考えています。具体的には、会員の皆さまにセンター行事である学位記授与式、入学式、各種の公開講座、だんだんサロン、面接授業、卒業生・在校生との懇談会、卒業研究発表会、学生募集、開設20周年行事準備等に協力します。

同窓会活動としては、卒業を祝う会、講演会、各地区の卒業生・在校生との懇談会、役員会の開催、会報の定期発行、会員名簿の発行整備、同窓会連合会・中四国ブロックとの交流、地域貢献活動等に取り組みます。会員登録については、今年度中に100人を目指して積極的に勧誘を働きかけ、学習センターからも支援を受け、三桁の会員登録実現に邁進します。会員皆さまのご協力を切にお願いします。

新しい取り組みとしては、過去からの卒業研究・修士論文について、各人の同意を得まして冊子としてまとめるための取り組みにかかります。

西部地区における学生支援のため、公開授業、面接授業開催に向けて学習センターと協議の上、開催が実現するよう具体的なカリキュラムの企画に協力します。

新しく4月より「オンライン授業」がスタートします。この授業はこれまでの放送授業ではなく、一方通行にならない講義方式となります。履修するためにはどうしてもパソコン操作が必須となるため、センターと協力しパソコン講習に取り組み、オンライン授業を利用できるよう学生のスキルアップに貢献したいと考えています。

## 放送大学の活動も「恒久平和」が保障されてこそ実現

しかし、現在展開している多彩な放送大学活動が保障されるためには、なによりも「恒久平和」が絶対条件です。ところが、現実の政治では、昨年ของกลุ่ม的自衛権行使容認にむけた閣議決定を行いました。これはまさに裏口入学に等しい解釈改憲であって、本音は「海外で戦争をする国づくり」へと邁進しようとする大変危険な国内情勢となりつつあります。

今年日本国のみならず、世界にとっても平和が希求されているだけに、日本が右傾化する情勢に世界が危惧することであろうとの思いを馳せながら、課題が山積している新しい年を迎えました。

## 島根学習センター所長挨拶

日々の小さな出来事に喜びを感じながら、  
前を向き、自分らしく

佐々有生



明けましておめでとうございます。

昨年4月から本学習センター勤務が始まり、真摯に学ばれる皆さんの姿が強く心に刻まれています。それは、前向きに「生きる」ことを考えるひとつのきっかけになっています。

ところで、昨年12月、NHKTV番組「スーパープレゼンテーション」で「The 3A's of awesome 『サイコーな人生を送るための3つの秘けつ』」

が放映されました。

プレゼンターは、ニール・パスリチャ (Neil Pasricha) さんです。不幸なことが続いたニール・パスリチャさんは、自分を元気づけるためにブログ『1000 Awesome Things(1000の最高なこと)』を立ち上げます。その日常生活で感じた小さな喜びを綴った内容が口コミで評判になり、国際的な賞を受賞したスーパーマーケット・チェーン勤務のサラリーマンです。

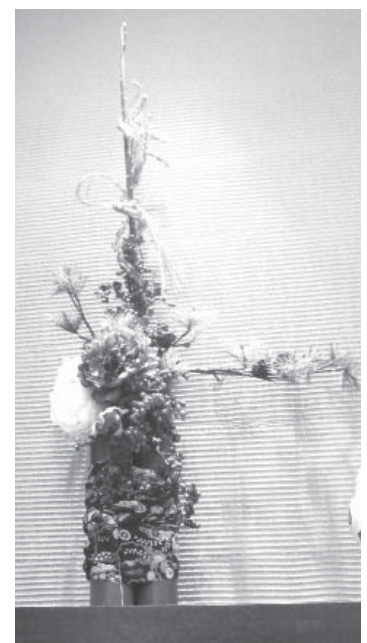
彼は、「世の中は幸せなことだらけ。これって人間だけです。生命が存在できる唯一の惑星に住んでいて、こんなにいろんな事を楽しめる。」と主張し、豊かで充実したサイコーな人生を送るための「秘けつ」として、次の3つのキーワードでスピーチします。

1. Attitude = 前向きな姿勢 (悲しんだ後、心機一転し未来に向かうこと)
2. Awareness = 豊かな感性 (自分の中の3歳児を大切にすること)
3. Authenticity = 本当の自分 (本当の自分を出し、これでいいと思っていること)

「世の中には、小さな喜びがたくさんあり、人生は短い。そして、今この瞬間は過ぎていく。どんどん過ぎていく。人は若くなれない。だから、前向きな姿勢で生きる。つらいことがあっても前に進む。豊かな感性を持ち続け、暮らしの中に小さな喜びを見付ける。本当の自分を出して、自分が楽しいと思うことをやる。そうすれば、豊かで充実したサイコーな人生を送れるでしょう。」と。

新たな年を迎えて、日々の小さな出来事に喜びを感じながら、前を向き、自分らしく歩みたいと思っています。

本年もどうかよろしくお祈りします。





## 役員各位のよる今年にかける抱負

## 「新年にかける私の決意」

副会長 石川直樹



同窓会が発足してから早や2年が経とうとしています。思えば、自分では手さぐりの状態の中でスタートし、会長をはじめ皆様のご協力でなんとかここまで来れたような気がします。そんな中で今年はいよいよ3年目を迎えます。今年こそ本当に学生の力になり、また活動を通して地域貢献などできればと考えています。

さて、いよいよ本題ですが、昨年、一昨年と私にとっては辛くて暗い時期だったと思っています。それまでは修士をめざして必死で学んでいた時期であり、睡眠不足やゼミへの長時間の移動などがあっても、まったく苦にならず、充実した時期を過ごしていました。

ところが、修了後は次のステップへの準備期間として、それまでの研究の継続や、博士課程へのチャレンジを目標にやってきましたが、残念ながらいずれも満足のいく結果にはつながっていません。これは単に成果がでなかったということだけではなく、自分自身の中に甘えがあったことが最大の原因だと思っています。

そこで、今年は今一度自分の課題を見直し、新たな目標を設定し取り組んでいきたいと思っています。それは従来の研究課題は継続しながら、本来自分の求めている課題の探求のために、少し領域を広げていきたいと考えています。具体的には、文化人類学と関連のある他の分野の勉強をして行こうと考えています。当面は、放送大学に再入学をして、そういった分野の基本的なところを習得し、その後のステップにつなげていけたらと思っています。

今年は学生に戻りたいと思っています。引き続きよろしく申し上げます。

## 『新年にかける私の決意』～「80歳というこの1年」～

副会長 増原久子



皆様明けましておめでとうございます。お健やかに新春をお迎えのことと思います。

先日、ラジオ深夜便の中でこんな言葉を聞きました。80年生きて来たということは、それだけ人生経験を積んで来たということになる。しかしその人にとって、80歳というこの年は初めての経験であると。そうして見ると、この1年をいかに生きるかが、私にとっては大きいテーマになります。放送大学という環境の中で、ご指導を受けながら、『自分史』のようなものをまとめる1年

にしたいと考えています。

山程の資料や原稿に囲まれて途方に暮れていますが、何とかしなければなりません。私の決意表明とはなんとも大げさなことになりましたね。

去る11月の末に、岡山学習センターでの面接授業に参加しました。科目名は『古代日本の家族と女性』です。学習センターは岡山大学の構内であって、周辺はカエデの紅葉で真っ赤に染まっていました。県外の学生との交流も広がりますので、たまには外へ出てみるのも“いいなあ”と実感したところです。

一方で、島根学習センターの面接授業は受講希望者が少ないことがあるので、県外の受講生を積極的に受け入れていく工夫をしていくことも大切だと感じた次第です。

## 新年にかける私の決意

理事 竹下 隆



明けましておめでとうございます。

放送大学を卒業して3年、そして島根同窓会発足して3年目となる今年と同窓会役員改選の年でもあり、2年の活動実績を基に新たな発展のスタートを切る年でもある。

私は昨年7月から取り組んでいる学芸員資格取得の残り博物館実習の3単位を岐阜女子大学との連携講座で確実に取得し、博物館学芸員の資格を取得することが3月までの目標である。

仕事は来年度も嘱託職員として、引続き県庁に勤務することになりましたので、再来年度から始まる国家資格の消費生活相談員制度に繋がる「消費生活専門相談員」（国民生活センター理事長認定）資格認定を取ることに集中していきたい。

放送大学の学籍はひとまず離れて、同窓会活動に協力させていただくこととなりますが、資格認定が取れましたら、又、大学に戻り修士課程で消費者問題の研究をしたいと考えています、多様な社会の仕組みが早いスピードで変革する中で私達高齢者と呼ばれる年代は取り残されないためにも絶えず学習意欲を失うことなく生活をするを心がけたい。

放送大学にはその場所が有り、モチベーションを保つための仲間がいます、そうした中で今年は先に述べた二つの資格取得を確実にして、再来年度の修士課程への受験の準備をしていくことが今年の私の決意としたい。

## 白出乾坤輝 (白出でて乾坤輝く)

理事 森脇エイ子



新年あけましておめでとうございます。

年の始めに稽古に伺う茶室には、この禅語の軸が掛けてあります。「日出でて乾坤輝き、雨収まって山岳青し」（季節の1月禅語）の対句から採ったもので、新年の初日の出を受けて、すべてのものが新たな生命を与えられ、光り輝いている様子です。

東の空から昇ってきた朝日を浴びて、野も山、街一帯、草木も映えています。わが家の後を流れる堀川にも光を浴びて鴨の群れが往き来しています。森羅万象が生き生きと輝いて見えます。

昨日となんら変わらぬ朝であるが、新鮮な風景が見え、不思議と身も心も引き締まる清らかさに浸れます。毎年のこと乍ら、この様にして年を重ねて参りました。新年をどう生きるか、正月とは自分を正す月ということですから、思うのは健康のことです。健康が第一です。

最近口をついて出るのが「どっこいしょ」です。アンチエイジングに依って加齢の速度が抑えられたとしても、逃れることは出来ません。目のかすみ、腰痛、膝痛など明らかに年齢を意識させる症状が出てきました。そして、この「どっこいしょ」が自分を奮い立たせていることも事実です。誰でも年をとる。いやでも年をとって行かなくてはなりません、こういう老いの忍びを「どっこいしょ」と乗り越えさせてくれる言葉となっています。

健康ならばこそ学習意欲も湧き、物事に積極的に取り組むことが出来るのです。つくづく健康のありがたさを感じています。今年も人生の歩みを一步一步「どっこいしょ」と前向きに生きていきたいと思えます。どうぞ本年もよろしく願いいたします。



## 新年にかける私の決意

理事 宅和由男



あけましておめでとうございます。

新年にかける私の決意というテーマで、原稿を書くことになったのですが、今年も「信念に欠ける私の決意」と、言うだけになってしまいそうで、恐る恐るでの投稿になります。

実際のところ、放送大学を卒業してから久しいので、「再入学」と、いうのが目標の一番に挙げられそうですが、実のところ他にも沢山やってみたくてありまして、再入学に至っておりません。

ではその興味あることの方はどうかと言えば、こちらも暫くパツとしないこの頃で、あえて言い訳をすれば仕事が忙しくて、という言葉を使っています。

なんだか何もはっきりしないこの自分を振り返り、今年はまだ自分の興味ある世界をしっかりと現実のものとして捉え、計画と準備を整えて挑戦してみようと思えます。

またその興味ある世界について、具体的に何かとは言えないのですが、一つは趣味の世界であり、一つは幾つかの試験です。これまでは趣味も試験も題目だけで、試験もただ受けては、その後暫くして届く不合格通知を何事も無かったように、ゴミ箱に捨てていました。

今年、趣味が形になるよう、試験の一つくらいは「合格」がもらえるよう計画、準備、実践の伴う「挑戦」をしようと思えます。

文章がだらだらになってしまいましたが、今年の大晦日には少しは締まって一年を振り返られるよう頑張ってみようと思えます。ついでに体も締めたいのですが、これを言うとまた嘘つきになってしまいますので、こちらは心に留めておきます。

今年もよろしく願いいたします。

## 「ここまで続けて」

理事 板倉直之



2015年がスタートしました。同窓会の皆様あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

さて、このたび「新年の決意」ということでしたが、「決意」というと重いので私はちょっとだけ趣味についてお話をさせていただきます。

私は中学二年の時から、アコースティックギターを趣味にかれこれ14年くらいギターに触れています。初めは「ゆず」からスタートし、親の影響でしょうかフォークソングを好むようになりました。初めは雨が降っているかのような音と言われていたものも、今ではギターの音は普通に聴けるといところまで来ました（歌はヘタクソですが）。そんな歌がヘタクソな私が20歳を過ぎたころにソロギターというものに出会って、好きな曲の楽譜を購入して弾くに至っています。

このソロギターというのがなかなか難しく、一曲弾くのに四苦八苦しています。しかし苦勞して一曲弾けるようになった時の達成感は何とも言えないものです。そしてマスターした曲を地元の飲み屋で人に聴いてもらって、拍手を頂いたときに楽しいと感じます。きっかけは些細なことから始めたギターですが、振り返ると人生の半分くらい続けているものとなっていました。上達して人前で弾き、拍手を頂いたり、時には昔懐かしい曲と一緒に歌ったりと、一期一会を楽しめる場所・人にも出会うことができました。今年もバタバタしてなかなか練習する時間を確保することが難しいかと思いますが、ギターに触れる時間を大切に、趣味を大いに楽しみたいと思っています。

今趣味をお持ちの方はそれを続けて行き、お持ちでない方は新しい何かを見つけられてみては？と私は思います。そしてそこで修得したものを表現できる場所、語り合える仲間に出会うことができれば最高だと思います。

## 新年にかける私の決意 「やり抜くことの心」

監事 小汀 政徳



今年は十二支の八番目の未年いわゆる羊年である。私も六回目の年男であり、もうこのような歳になったのかと内心では愕然としている。この間あるテレビ番組で漢字のなかで羊やその部分が含まれている漢字は印象がよい意味の漢字が多いと言っていた。例えば祥や美や善などである。いままであまり聞いたことがなかったので、なるほどと少し気持ちが和らいでいる。

ところでいま気になっている二人の若きトップアスリートがいる。フィギュアスケートの羽生結弦選手と島根出身テニスの錦織圭選手である。

羽生選手といえば中国上海であったグランプリシリーズ中国杯の男子フリーが始まる前の6分間練習中に中国選手と激突し、二人とも倒れこみしばらくは身動きができずにいるシーンがいまでも鮮明に浮かんでくる。数分後に練習が再開されたとき、羽生選手は頭に包帯をぐるぐる巻き、鮮血がみえる顎に絆創膏を貼った姿は痛々しかった。私は脳震盪が疑われ、彼のこれからの長い選手



生活を考えると棄権するのが適当と思ったが、リンクに上がり、本番では2種類の4回転のジャンプは転倒したものの「オペラ座の怪人」の曲に乗せて滑りきり、採点後に顔を両手で覆って泣いた。

その後、NHK杯を終え、グランプリファイナルへの出場が決まった後で、彼を指導するコーチは「チャンピオンになるタイプの選手は、自分が競うことができると感じれば絶対に出る。トップアスリートはそういう性質だ」と語り、その人柄を「アスリートとして集中的にやる気を持っている。寛容で、礼儀正しく育ちがいい」と高く評価している。

錦織選手の全米オープンでの予選リーグの最終戦や準々決勝の戦いぶりは、彼が試合ごとに見せた著しい成長ぶりを際立させた。両方の試合とも粘りに粘り、全力で球を追いつルセットまで持ち込み4時間を超える死闘を制した。そして今は「負ける気がしない」とまで言わせた。

両選手のいかなる環境でも「やり抜いた」という強い達成感が我々にひしひしと伝わってきた。しかし、大会終了後には二人とも「悔しい」とその心情を口にした。これが彼らのさらなる飛躍の原点になるかもしれない。私もそのような心を大事にしていきたい。



## 平成26年度第1学期卒業生からの声

### 私の「人生の節目」

生活と福祉コース 佐藤ひばり



人生には、節目があると思う。私にとってその一つが放送大学でした。仕事を辞めてから、いや、辞める前から「辞めたら次は何に打ち込もうか？」と模索する中で、主人や娘が放送大学を勧めてくれました。

最初は好きな科目だけを学べる専科履修生からスタートしようと思っていましたが、主人いわく「どうせ受講するなら、学位取得を目指した方がいいんじゃないか・・・」の言葉に励まされ、二年次編入の全科履修生として入学しました。

そして私の生活の中で放送大学は、重要な部分を占めることとなりました。

単位認定試験に向けて勉学に励む日は、まさしく自己との戦いでした。時には心がくじける事も多々ありました。しかし、何度か受講した面接授業では、大学の先生や、様々の分野の学生とグループワークやコミュニケーションで刺激を貰い、私の心を奮い起こさせてくれました。これらの積み重ねは、私自身の成長や自己研鑽となりました。お陰で4年大学の学位を取得し、目標を達成することができました。

先生方、職員の皆さま、そして家族の協力のもと卒業できましたことは、本当に感謝の限りです。ありがとうございました。大学で学んだこと、そして試行錯誤しながら歩んできた過程は、私の人生の糧として貴重な思い出となりました。



## 平成26年度第1学期卒業生からの声

## “卒業” できた喜びに浸って過ごす至福のとき

生活と福祉コース 大庭洋子



いま、広島県境の山々は紅葉のミド・ストリーム。正に自然の奏でる美の描写です。庭の木々ももみじ色がとてもきれいです。松江の晩秋もきつときれいでしょうね。

先般の「学位記授与式」でのお祝辞、そして数あるお心遣い大変有り難うございました。また、式典後の“卒業を祝う会での学友会からの記念品”と、サプライズの連続に喜びも嬉しさも倍増でした。

“卒業”という実感があまり湧かなかったのですが、あの様に盛大に祝っていただき感極まる喜びに包まれた思いでした。幸せな時間を有難うございました。出席できましたこと本当に良かったです。

振り返れば一、入学は6年前でした。実在学は5年です。過ぎ去った歳月の速さを実感しています。たくさんの方々との出会い、触れ合い、学ぶことのよろこび・・・知ることの楽しさ、(今は忘れていくことの方が多いのですが) 試験との向き合い、緊張感・・・全て歳月が与え、残してくれた私への素晴らしい時間です。これから先も貴重な財産として私の中に生きていくことと思います。

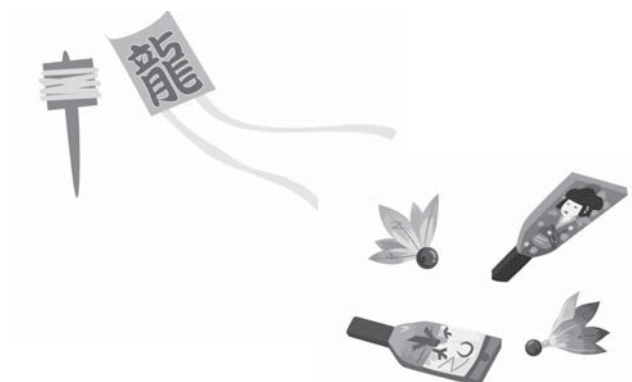
卒業までの6年間の間には色々なことがありました。自分自身の二度の入院手術、母の看護、介護、母の死(この様な別れは頭では分かっているが現実には起こることは全く私の中になかったもので非常に落ち込み辛かった) 退学を考えた時期もありましたが、何とか「卒業」ゴールまで歩くことが出来ました。やはり、学友、人との出会いが後押ししてくれたのだと思います。今後、どの様にするかは今のところ未定ですが、再入学となりました折にはお世話様になると思いますので、その節には皆さまどうぞよろしくお願いいたします。

“式典”の翌日は、主人と松江観光を1日しました。あの赤い周遊バスに乗って巡りました。(松江に着いてスティックビルに行くためバスを待っているとき、いつも目にしていたので何時かは乗りたいと) 何度も松江に行き乍ら、何時も列車の時間に追われ、松江をゆっくり観ることも、感じることも出来なくて残念に思っていました。

今回「卒業」の“お祝いと記念”にと、主人が企画してくれた松江観光でした。列車の時間を気にすることもなく、ゆっくり過ごすことが出来て、至福の時間となってよい思い出となりました。

サプライズでの喜びの花束は、その夜ホテルの部屋に飾り、翌日私たちと一緒に益田に帰り、暫くはわが家のリビングで、幸せの余韻を漂わせてくれました。

同窓会、学友会、学習センターの皆さま、本当に有り難うございました。



## 会員リレートーク③

## 英語と私 ～そしてこれから～

卒業生（生活と福祉専攻）

全科履修生（人間と文化専攻）増原久子



昭和22年の春、6・3・3・4制の新しい教育制度が発足しました。当時私は新制中学の1年生で、初めて英語という教科に出会いました。中学、高校、大学（教育課程2年修了）と、この8年間の学生時代は先生にも恵まれ、英語が大好きな教科になりました。

2年間の教職勤務を経て、家庭をもってからは、子育てや夫の両親の介護に没頭して、全く英語と縁のない暮らしが長く続き、何もかも忘れてしまったようでした。演歌のセリフではないですが、「あれから何年経ったでしょうか」。

再び英語の勉強を始めたのは10年ほど前のことです。今は放送大学の「だんだんゼミナール」で、島根大学からの客員教授長岡真吾先生の指導で、アメリカの短編小説を原文で読んでいます（先生の海外出張でしばらくお休みですが）。ほかに文化センターで英会話を学んだり、CDを聴いたり、いろいろと英語を楽しんでいます。

そして、今年で80歳。自由な時間はある、贅沢をしなければ学ぶための経済的負担もなんとかなる、健康面も、あれこれ気になるころはあっても、今のところ何とか大丈夫、問題は気力です。気力を失うことなく、これからも続けることができるのは何だろうと考えました。そして、なんとも大袈裟な話ですが、ここへきて人生の最終目標が決まりました。それは翻訳の勉強です。英語を読んで、そこにある風景とか、人物描写などを、自分の頭の中に思い描いて、それをひとつの形にして、新たに日本語で表現していく。そのためには日本語の表現力が不可欠です。そこで放送大学客員教授の足立悦男先生の「だんだんゼミナール」の作文教室で日本語の腕も磨いていこうと思います。

西行法師は「願わくは花のもとにて 春・・・」と言っています。願わくは、机の上に、大きい英語辞書を広げて、その上でうたた寝でもするかのように、人生を終えることができれば、私は最高に幸せです。残された時間は少ないかもしれませんが、できるところまで、楽しみながら続けていこうと心に決めました。

先のNHK朝の連続ドラマ「花子とアン」で、戦災で親を失った子供たちを引き取ろうとする妹に向かって、花子がこんな言葉をかけましたね。“My time has come at last”アンを育てる決意をしたマリラの言葉で、妹を励まします。「ついに私の番が来たのよ」と。

私もこの言葉を胸に、新たな一歩を踏み出したところです。

## ～同窓会よりお知らせとお願いです～

## ①会員名簿お届けします

遅くなりましたが、初めて作成しました会員名簿を同封しました。記載内容は「入会申込書」での情報について「開示同意事項」のみの記載となっています。同意されない事項は未記載です。もし記載内容に誤りがございましたら、お手数ですが竹下までご連絡下さい。

①あくまでも個人情報ですので取り扱いには充分ご配慮下さい。

②住所などご連絡先が変更となった場合は、必ず竹下までご連絡して下さい。

③FAX番号が未記載の方は、お手数ですがお知らせ下さい。ただし開示に不同意される場合は、その旨ご指示下さい。同窓会よりご連絡を要する場合もございますので、竹下までお知らせ下さい。

## ②ご寄付のお願い

島根同窓会では、独自活動と学習センター事業支援、学生への支援活動に取り組んでいますが、会員が少なく安定した財源が確保できるに至っておりません。

つきましては、会費を頂いている上に大変心苦しい限りですが、ご支援をお願いする次第です。安定した財源を確保するため事情ご賢察の上、何卒ご協力をお願いします。

ご協力いただける場合は、下記口座にてお願いします。

### ①郵貯銀行の場合(口座から口座への振込みは送金手数料が無料)

・記号 15370 ・番号 8940271 ・名義 放送大学島根同窓会  
 ・店名 538 ・種目 普通預金 ・番号 894027

### ②通常銀行の場合

・銀行 山陰合同銀行・支店 本店営業部 ・店番 001  
 ・名義 放送大学島根同窓会 ・口座 3716171

## ◆同窓会の活動報告◆

(2014年6月～12月)

5月31日(土) 同窓会連合会第17回総会  
 ～01日(日) 竹下出席(千葉県・幕張)  
 6月21日(土) 第2回同窓会中四国ブロック  
 ～01日(日) 竹下出席(広島学習センター)  
 6月24日(土) 会報“たたら”第3号発送  
 6月26日(木) 第2回会員行事案内発送  
 6月28日(土) 第1回役員会  
 (学習センター)  
 7月06日(日) 第2回センターとの懇談  
 (学習センター)  
 8月12日(火) 第3回会員行事案内発送

8月23日(土) 公開講座「美術に親しむ」  
 (センターと共催)(学習センター)  
 8月23日(土) 学位記授与式打合せ  
 (学習センター)  
 9月14日(日) 第2回役員会  
 (学習センター)  
 9月28日(日) 1学期学位記授与式及び  
 卒業を祝う会(センターと共催)  
 (学習センター)  
 10月11日(日) 公開講座(センターと共催)  
 「能の歴史と謡の魅力」  
 第2回卒業生・在校生懇談  
 (浜田市・いわみーる)  
 10月25日(土) 第3回広報部会  
 (市民活動センター)

## 平成26年度2学期卒業研究発表会(共催)

日時 平成27年2月8日(日) 15:30～16:30  
 会場 松江市 島根学習センター「3階第一講義室」

### 卒業研究発表者

○人間と文化コース 知野見 信孝さん  
 「中世連歌と現代連歌の比較研究」

○心理と教育コース 柴田 かおるさん  
 「幼児期に読んだ絵本が人に与える心理的影響の一考察」

準備の都合上、お手数ですが出席については学習センターまでご連絡下さい。  
 (電話/0852-28-5500 FAX/0852-28-1800)

※後輩の研究発表に卒業生多数のお越しをお待ちしています。

18:00～有志による懇親(会費制)を予定しています。併せてご参加下さい。



## 平成26年度2学期学位記授与式・卒業を祝う会

日時 平成27年3月29日(日) 13:00~16:30

会場 松江市 島根学習センター「3階第一講義室」

○学位記授与式 11:00~12:00 (主催:センター行事)

○卒業を祝う会 12:00~13:30 (主催:島根同窓会)

準備の都合上、お手数ですが出席の場合は学習センターまでご連絡下さい

(電話/0852-28-5500 FAX/0852-28-1800)

## 第3回定時総会日程が決まりました

日時 平成27年4月26日(日) 13:30~16:30

会場 松江市 島根学習センター「3階第一講義室」

### 第1部

- ・第1号議案 平成26年度活動報告
- ・第2号議案 平成26年度決算報告
- ・第3号議案 平成27年度活動方針(案)
- ・第4号議案 平成27年度予算(案)
- ・第5号議案 任期満了に伴う役員改選

### 第2部

記念講演には「医療・福祉制度」の解説を予定しています。現在講師と交渉中です。

### ～平成27年～28年度の役員を募集します～

- ・役員候補は自薦・他薦(本人の同意が必要)を問いませんが、同窓会員に限ります。
- ・募集期間は平成27年3月1日～3月30日まで
- ・会長竹下靖彦までご連絡下さい。電話・FAX 共用 0852(24)0108

## ◆編集後記◆

あけましておめでとうございます。

島根同窓会は3年目を迎えました。会報「たたら」も第4号を発行することができました。これまでに多くの課題や手探りの状態がありましたが、その一つ一つを解決し、このあゆみが力強く進むことができましたらこの上ない喜びです。そのためにも会員の皆様の忌憚のないご意見や投稿をどしどしお寄せいただき、各種の行事に多数ご参加いただければ大変嬉しく思います。

昨年は島根にとって喜ばしいニュースが二つありました。一つはテニスの錦織圭選手の全米オープンやATPツアーファイナルでの活躍、二つ目は高円宮典子さまと千家国麿さまのご結婚です。特に錦織選手は13歳で渡米し、フロリダに住まいを構えIMGアカデミーで学び、訓練で培われた英語力、最後まで諦めない、粘るといった試合スタイルは生涯学習に身を置く者にとっても大いに刺激を受けました。

全国で唯一現存している雲南省の菅谷たたらの高殿の2年間にわたった大規模の修復工事がこのほど完成しオープンしました。一新された栗の木のこけら屋根葺きや土壁からは新しい息吹が伝わり、わが身にパワーをもらったような気分になりました。新しい年の初めに当たり心身ともにリフレッシュの大切さを改めて感じているところです。(mo)